

人をつなぎ・人がつながる
～そして、前例を超える・前例を創る～

最終回は、

波瀾万丈のケーススタディ

テンマーク・鷹巣・千葉・世田谷で

寝たきり老人ゼロ作戦登場、介護保険のメニューに、
障害者差別解消法、人権が基本の認知症基本法に

世田谷区の希望条例は 第2期計画へ

と〜く……まゆみ・中澤&ゆき★

第2期世田谷区

認知症とともに生きる希望計画

(令和6年度(2024年度)～令和8年度(2026年度))

策定にあたっての考え方について
《答申の中間まとめ》



つなぎびとゆき
ことの始まり



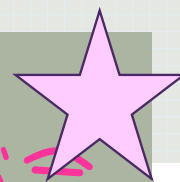
「筆まめ」に6958人

年賀状約3000人

「えにしメール」を受けてくださる方

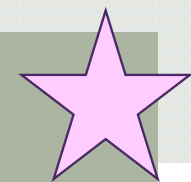
18国6000人余

この秋
第23回「新たなえにし」を結ぶ会



つなぎびととしての初仕事

デンマークと厚生省若手を縁結び



おむつをしてもお洒落ができる
ホームヘルパーが朝昼晩現れる
訪問ナースは名探偵
補助危機センターと地下室が凄い
魔法のランプをこすったように
家庭医という名の専門医



「寝たきり老人」という言葉がない、独り暮らしの認知症の人が自宅で暮らすデンマークでは

ホームヘルパーに、求められている資質

- ★認知症のお年寄りに尊敬の念をもて、なおかつ忍耐強い
- ★同じことを何度いわれても興味深く耳を傾け、気持ちを正確につかむ
- ★小さな変化も見逃さない繊細さをもつ
- ★奇妙な行動にも驚いたりせず、怒りを受け止められる度量がある
- ★機転のきいた受け答えが得意
- ★ユーモアがある

訪問看護師が、世間話をしながら、見つけ出す7つのこと

- ★食事など日常生活は？
- ★孤独ではない？生きがいは？
- ★家族や隣人・友人とうまくいっている？
- ★症状に変化は？
- ★セルフケアの能力は保たれている？
- ★自立のために、さらに何が？
- ★会話能力・コミュニケーション手段は保たれている？



物語 上 介護保険

いのちの尊厳のための
70のドラマ

大熊山紀子

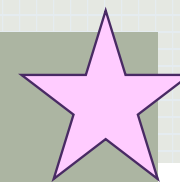


岩波書店

メニューとゼロ作戦は
できたれど
質と待遇は
おいてけぼりに (涙)

デンマークのホームヘルパーの月収は 48 万円、店員の 38 万円、運転手の 44 万円を上回ります。日本のヘルパーの月収 10 数万円とは大違いです。日本のヘルパーの給与は、勤務医の 2 割にもとどきません。デンマークのホームヘルパーの月収 48 万円は、デンマークの勤務医の月収の6割ほど

自・社・さ・猛母・哲人がつながって



「介護保険30年～原点に戻って考える」

介護保険の“猛母”…樋口恵子さん

ミスター介護保険…山崎史郎さん

高齢者介護・自立支援システム研究会（通称、大森研）の…大森彌さん

自・社・さ政権・福祉プロジェクトの自民党のキーマンだった…衛藤晨一さん

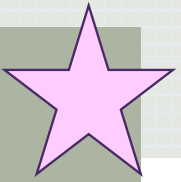
自・社・さ政権・福祉プロジェクトの社会党のキーマンだった…五島正規さん

“介護保険の産婆”を名乗る 介護保険の哲人…堤修三さん

2010

「ゆきは黒子に」という「えにしのおきて」を破ったたった一度のコーディネーター役

秋田県鷹巣町で「変えられた」と思ったら **冤罪(ノ\)**
 村木厚子さんと岩川徹さんの運命の分かれ道は。。。



こんなまちなら
 老後は安心!
 セーフティネットを鷹巣から北秋田へそして全国へ
 大熊一夫 + 岩川徹 + 飯田勤

あの鷹巣福祉はどうなった?!

大熊一夫 + 岩川徹 + 飯田勤 + 大熊由紀子 + 羽田澄子 + 外山義

●目次

第1部 政権交代と「身の丈」福祉

- 1章 一番星の消えた国(大熊一夫)
- 2章 鼎談 福祉で財政は破綻したか
- 3章 安心の火を消さないで

第2部 鷹巣ウォッチャー四人の証言

- 4章 真の敬老を競う時代(大熊由紀子)
- 5章 いつも「問題はこれからです」(羽田澄子)
- 6章 私の個室へのこだわり(外山 義)
- 7章 鷹巣福祉戦争(大熊一夫)



高齢者福祉の星
 岩川徹逮捕の虚構

つくりごと



「私たちも今、刑事司法の場で
 起きていることを直視しなければ、
 冤罪は繰り返されます」

元厚労省副長
 村木厚子氏
 推薦!

千葉県で志の縁結び「障害のあるひとともに暮らしやすい千葉県づくり条例」⇒国の障害者差別解消法



ブレメンの挑戦編集委員会 編著

ブレメンの 挑戦

〜新福祉論が目指す
まちづくり

「だれもが、ありのままに、その人らしく、地域でくらすことができる」「理不尽な理由で辛く悲しい思いをしている人がいない千葉」を合い言葉に、現場と政策をつなぐ新しい行政文化が日本でも誕生しつつあります。

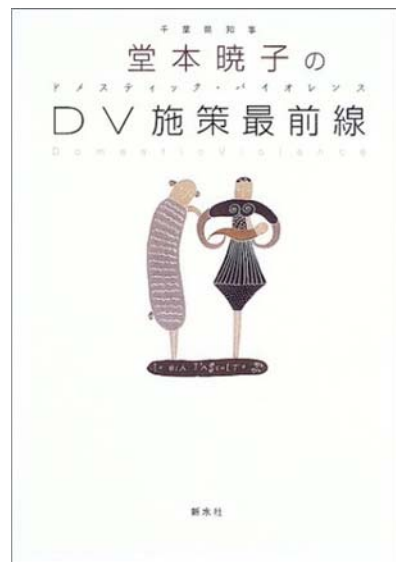


先々週の“聴講生”竹林悟史官房審議官
このときは千葉県の障害福祉課長

2001年～
2007年

「市民が変える政治」「住民主権」と出会う

千葉県知事に当選した堂本暁子さんの依頼で、
選挙のドキュメント本を1か月で制作。
インタビューと取材、その後、広報アドバイザーとして
7年間、千葉県にかかわる中で、行政との「協働」を学ぶ。



2003年

友人の介護が飛び込んできた

15歳年上の丸子さん・・・・・・・・。

30年来の親しい友人、おひとりさまで親しい身寄りなし。

その彼女に異変が！？

■2003年ごろ～：傍目にも、丸子さんのもの忘れが目立つようになる

■2004年：精神科クリニックに受診開始

「高齢者うつ」を疑い、カウンセリングを行う精神科クリニックへ。同行を開始。

半年ほど受診しているうちに「うつではないようだ」と言われ、大学病院を紹介される。

初期のアルツハイマー病の診断



2007年

「世田谷福祉100人委員会」に参加

区と区民と事業者の協働事業

～多職種連携で「行政との協働」を～

【5つの部会で活動】

- ①ライフステージに合ったまちづくり
- ②地域人材の育成と活用
- ③最後まで在宅を考えるしくみづくり
- ④みんな生き生き暮らすまちづくり
- ⑤障害者差別をなくす

■自分の住むまちを知らない
■住民が関わることで
世田谷も変わるのか？

2010年～2014年

せたがや福祉100人委員会(最後まで在宅部会)

① 「私たちが知りたい在宅医療のいま」 2010年2月

神津仁医師
英裕雄医師
斎藤康洋医師
介護家族
長谷川幹医師



② 「私たちが知りたい在宅での看取りのいま」 2010年5月

梅田耕明医師
斎藤博医師
訪問看護師
介護家族
長谷川幹医師



③ 「私たちが知りたい医療と看護と介護のいま」 2010年9月

藤田和丸医師
訪問看護師
ケアマネジャー
介護事業所
家族会
長谷川幹医師



④ 「区民の視点で自分らしい終末期を考える」 2011年2月

介護家族(3組)
訪問看護師
長谷川幹医師



住民の視点で「最期まで在宅」を考える

■ 第5回シンポ： 地域で支える認知症 （2012年3月）

古田伸夫医師、小規模多機能ホーム長、家族会、長谷川幹医師

■ 公開学習会： 自宅で平穏な最期を迎えるために （2012年12月）

鈴木央医師

■ 第6回シンポ： 「退院難民」「介護難民」にならないための地域ケアのしくみ （2013年3月）

松村真司医師、ケアマネジャー、管理栄養士、介護家族、世田谷区

■ 公開学習会： 認知症でも最期まで地域で暮らす （2013年11月）

遠矢純一郎医師と認知症ケア初期集中チーム

■ 第7回シンポ： 高齢社会の未来は住民力で （2014年1月）

高橋紘士氏、NPO、区民、世田谷区

■ 公開学習会： 仕事はやめない ～働きながらの介護を考える～ （2014年12月）

大熊由紀子さん、牧野史子さん、区民、当事者

■ 出前講座

遠矢純一郎医師、長谷川幹医師ほか

住民と共にある
医療・介護とは？



せたがや福祉100人委員会「最期まで在宅」部会・公開学習会

仕事はやめない ～働きながらの介護を考える～

第1部 基調講演
私自身の働きながらの介護～北欧と比較しながら
大熊 由紀子 国際医療福祉大学大学院教授
福祉と医療・現場と政策の対比し、北結ぶ志の結びひねり小間使役

第2部 パネルディスカッション
働きながら介護を続ける介護家族の思い
大熊 由紀子 (コーディネーター) 国際医療福祉大学大学院教授
牧野 史子 NPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラン理事長
三浦 豊 介護者
古澤 智太郎 介護者
早野 真佐子 介護者 東京医療保健大学

第3部 会場を交えて

2014年 12月6日(土)
14:00～16:30(開場13:30)
東京医療保健大学世田谷キャンパス
ABO1教室 世田谷区世田谷3-11-3
定員160名 資料代 500円
申し込み・問い合わせ 03-5477-9891(中継)
Eメール mayu212@mh.nie.jp

主催：世田谷区/東京医療保健大学/市の働きながらの介護推進協議会
主幹：せたがや福祉100人委員会「最期まで在宅」部会 <https://sites.google.com/site/meyu212/>

世田谷区民会館100人委員会「最期まで在宅」部会

高齢社会の未来は 住民力で

私たちの手で
実現したい
地域包括ケア

第1部 13:00～
基調講演
医療・看護・介護・福祉と
住民がつくる「地域包括ケア」
高橋 紘士 国際医療福祉大学大学院教授

第2部 13:50～
パネルディスカッション
住み慣れた世田谷で
最期まで暮らすために
長谷川 幹 (コーディネーター) 長谷川クリニック院長 医師
北野 明子 NPO法人介護者サポートネットワークセンター 代表
北橋 紘子 NPO法人せたがや中核型地域包括ケア推進委員会
小竹 賢久 介護者
中澤 まゆみ せたがや福祉100人委員会「最期まで在宅」部会
世田谷区

第3部 15:00～
質疑応答
みんなで話し合おう、
世田谷区の2025年に向けて

2014年1月18日(土)
13:00～16:00(開場12:30)
玉川区民会館ホール
世田谷区玉川4-4-1 03-3202-1675
【無料】世田谷区民会館ホール 座席100席
【有料】1000円(当日現金払い) 座席100席
【有料】1000円(当日現金払い) 座席100席
【有料】1000円(当日現金払い) 座席100席
参加費：無料(先着450人) 要予約

主催：せたがや福祉100人委員会「最期まで在宅」部会 (後援)世田谷区、世田谷区社会福祉協議会、世田谷区社会福祉協議会
協賛：せたがや福祉100人委員会「最期まで在宅」部会(中継) 03-5477-9891 Eメール mayu212@mh.nie.jp

講座活動と介護で学んだこと

病気や要介護状態＝誰にでもその可能性が

いまは「元気中年」「元気老人」でも、「病気老人」「要介護老人」の予備軍

「自分ごと」として考えることが大事

ケアを受ける側 ↔ ケアへの参加

「地域包括ケアとはケアを通じたまちづくり」

行政との「協働」が必要

私たち自身が学ばねば

一人称からの出発
住民主体の「場づくり」
医療・介護・行政・住民の協働

誰にでも訪れる「中途障害」

「中途障害」とは人生の途中で、病気や事故により障害をもつこと

*お母さんのお腹の中で起こる障害

*事故や病気で起こる障害

*心が病んで起こる障害

*認知症になることも

年を取ることも

「中途障害」です。



「地域包括ケア」をどう実現する？

” 地域包括システムとは、保健・医療・福祉の連携による社会を視野に入れた、住民の健康づくりからアフターケアまでを含む住民参加のシステムである”

しかし・・・

いま、語られているのは、

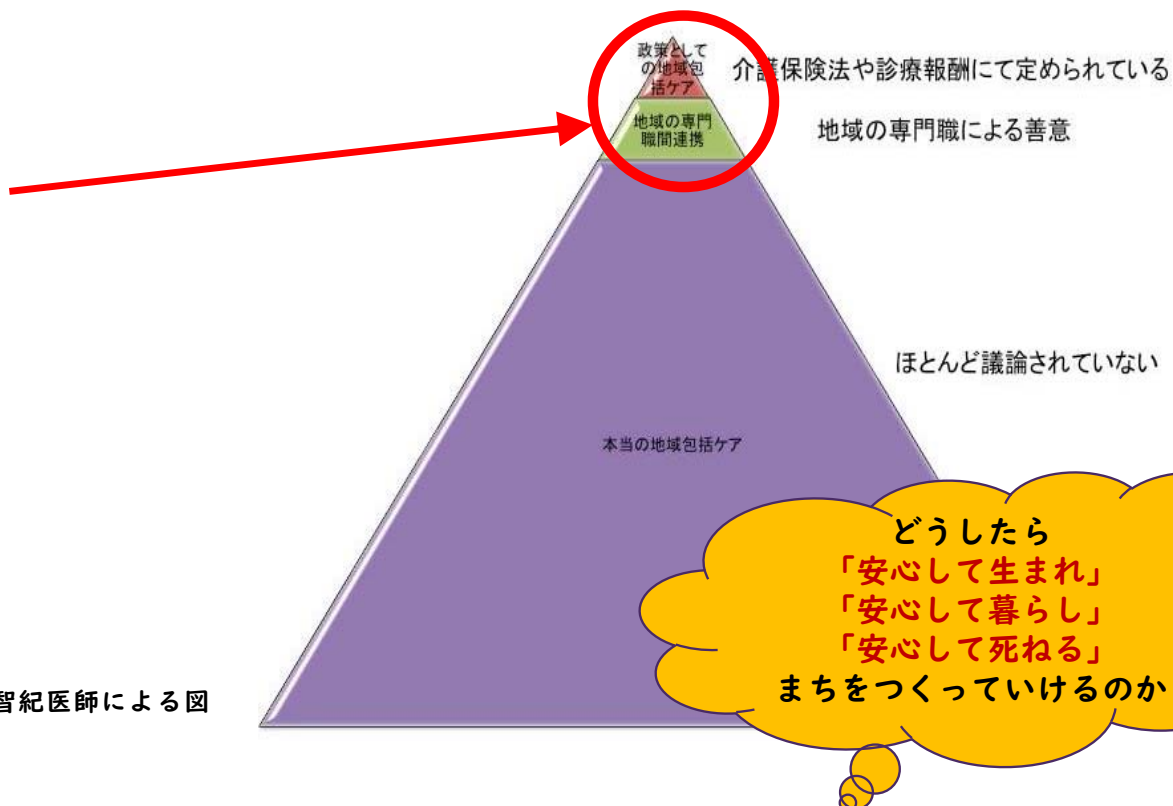
政策としての地域包括ケアと、

専門職による活動だけ。

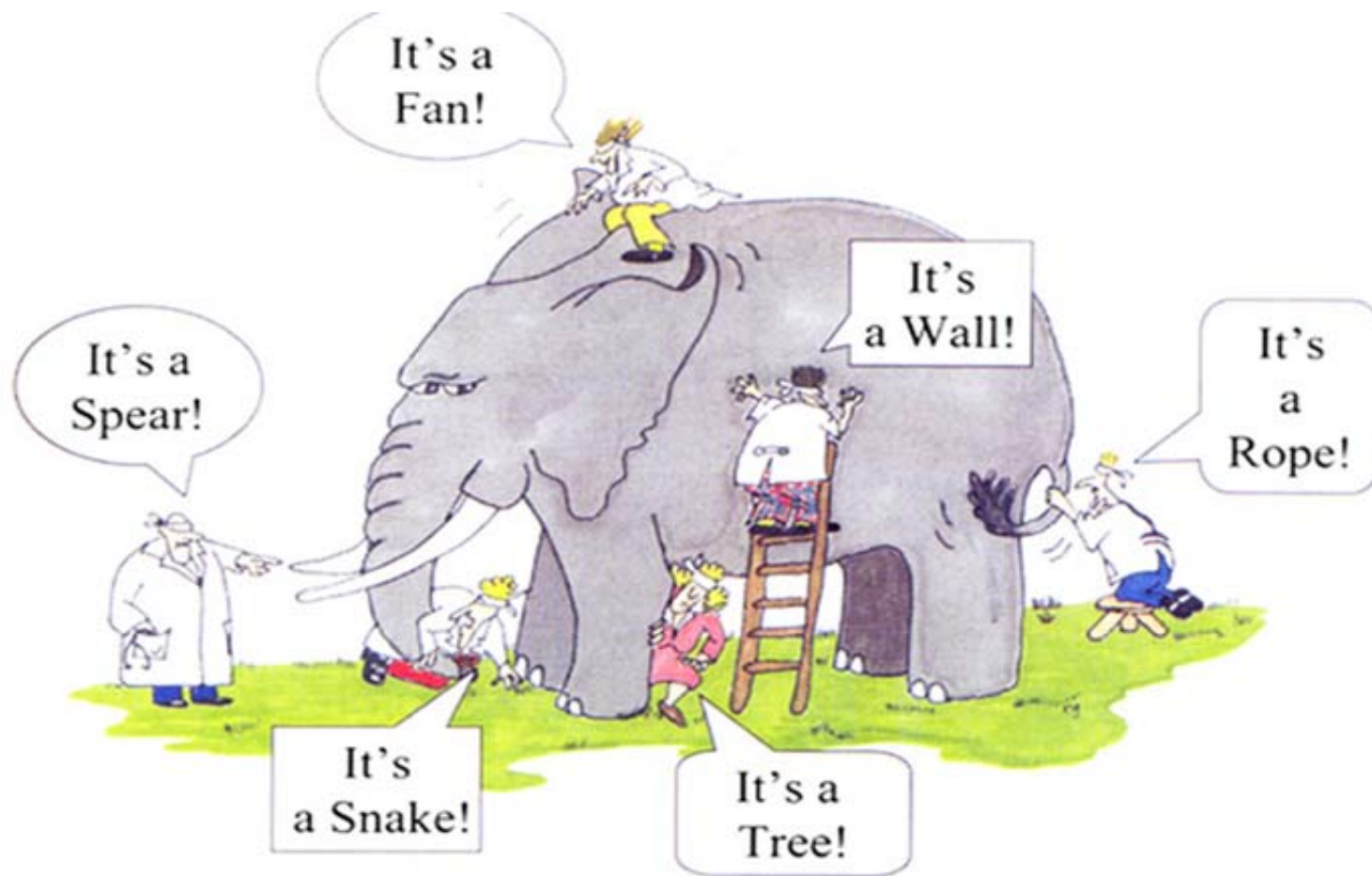
まだ、ほとんど語られていない

本当の地域包括ケアってなに？

地域包括ケア幸手モデル 中野智紀医師による図



「地域包括ケア」というと、この図を思い出す



2013年

三方よし研究会」との出会い

「患者よし、（医療）機関よし、地域よし」

2007年から毎月、医療・介護・市民連携

小串医師「**都会に田舎をつくれればいいじゃないか**」

「妄想」から、「せたカフェ」構想へ

ゲスト講師
⇒公開講義
の聴講生
花戸貴司doctor

H-PACに参加
「地域包括ケアへの住民
研究で取材



永源寺の
地域まるごとケア

花戸貴司 〓
國森康弘 〓

ご飯が食べられなくなつた
どうしますか？



都会で「コミュニティ」をどうつくるか

■ 田舎型コミュニティ

血縁、地縁

■ 都会型コミュニティ

知縁、好縁

■ アメリカで見たコミュニティ

人種、教会、団地、志を同じくするグループ
(共同体)

孫大輔さんの「みんくるカフェ」
をフェイスブックで知る



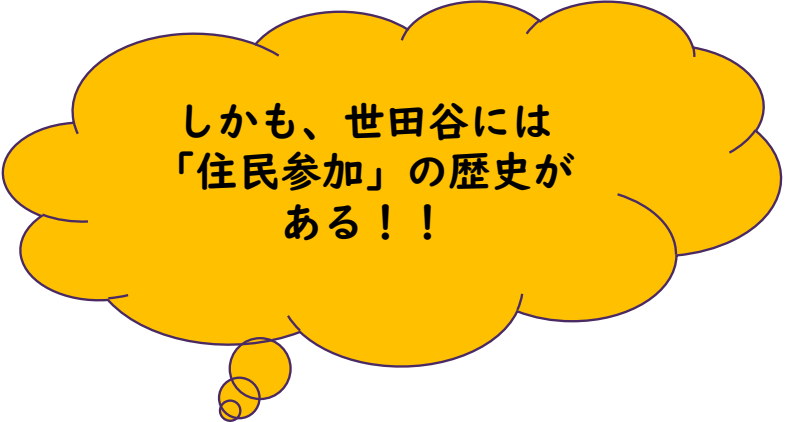
拠点はインターネット上
でもいい！！

世田谷には520のNPOと2000を超える任意団体がある。

しかし、「福祉」ひとつとっても、ほとんどつながっていない。

世田谷区の住民参加と「まちづくり」

- 1975年 区長公選再開。「参加のまちづくり」の気運。プレーパーク運動、「区政のひろば」始まる
- 1975年 世田谷ボランティア連絡協議会発足
- 1976年 鳥山寺町環境協定／第1回雑居まつり
- 1979年 羽根木プレーパーク開設（1979）
- 1981年 世田谷ボランティアセンター開設
- 1982年 全国で初めて「世田谷区街づくり条例」で「住民参加」が位置づけられる
- 1987年 世田谷区まちづくりセンター設立調査開始
- 1989年 世田谷トラスト協会設立
- 1992年 「世田谷まちづくりファンド」スタート 資金源：（財）世田谷 区都市整備公社（委託者） 事業実施：三井住友信託銀行（受託者）
- 1994年 23区南生活協同クラブ生協まちづくり活動スタート
- 1995年 まちづくり条例、全面改正。「地区住民は、地区におけるまちづくりの案を区長に対し『提案する』ことができる」
- 2000年 都市計画法の改正で、住民参加が定められる
- 2004年 「政策提言の会」発足
- 2006年 せたがやトラストまちづくり大学
- 2007年 「せたがや福祉100人委員会」発足



しかも、世田谷には
「住民参加」の歴史が
ある！！

世田谷区のケア社会資源

ないものねだりではなく、あるものさがし

■ 少ないもの

病院（急性期病院5）

小規模多機能型居宅介護（9）

特養など介護施設

■ 多いもの

在宅療養支援診療所（看取り実績のある診療所50以上）

介護事業所（800）

社協のサロン（高齢者関係だけで555か所）

NPO（520）+住民団体=2000以上

大学（18）駒沢大学、成城大学、東京農学大学、昭和女子大学、武蔵工業大学、日本体育大学

日本女子体育大学、国士館大学

明治薬科大学、日本大学、東京医療保健大学、

多摩美術大学など

これだけあるケア資源を
なんとかつなげないか？

しかし、これらがほとんどつながっていない

ケアコミュニティ せたカフェを立ち上げる

住民を含めた多職種で世田谷をつなぎ「点をネットワークに」



もちより
カフェ

地域活動

介護
サービス

まちづくり
防災

介護者
家族支援

番外講座

せたカフェは、世田谷区を中心に医療・介護・福祉と住民をつなぐ多職種コミュニティ。

地域ケアのために何かしたい人が、何かをする場所です。

講座活動、医療・介護相談、ネットワークづくり・・・何でもあり。

「ケア」と「福祉」をキーワードに、どんな方でも参加できます。

世田谷を拠点に、参加する人が自分のやりたいことを実践できる場づくりを目指しています。

認知症
カフェ

居場所
子ども食堂

在宅医療

リンク

広域活動

介護
実践講座

2018年～
2020年

「認知症施策推進条例」から「希望条例」へ

■2018年6月 区議会で公明党が代表質問(公明党の「認知症施策推進基本法案」に呼応)

⇒ 神戸市をモデルにした賠償保険モデルの条例づくりを提案

■2019年4月 世田谷区、「認知症施策推進条例」検討委員会の設置

⇒ **認知症施策評価委員会(2016年～)の主要メンバーをはずした委員で構成**

■2019年6月 「認知症に関するワークショップ」を開催 ⇒ 条例についての説明は一切なし

「ワークショップの2回目はない。次はパブコメ」との回答

■2019年8月 **6人のサムライが区長に提案!!!!!!**

何かおかしい
このままでは大変だ
(参加した区民)

区長が
仕切り直しを指示

■2019年11月 第2回ワークショップ(「認知症条例ワークショップ」)実施

■2019年11月 条例検討委員会に新メンバー6人加わり、「本人」が主語になる条例の理念、条例骨子案を検討

■2019年12月 認知症の本人3人が委員として加わり、「希望」「パートナー」などの文字を条例に入れることを提案

■2019年3月、6月、7月、9月 条例(素案)の検討～条例(案)～条例の制定

■2020年10月 「認知症とともに生きる希望条例」施行

2019年世田谷の条例に激震!!!!!!!、
「なんだかへん」とはるみさん・まゆみさん

2019年8月、6人のサムライが区長室へ!!!!!!!



世界を知っている 淳志さん……オレンジプランのadviser

日本各地を知っている 久美子さん

世田谷を知っている まゆみさん

100人委員会委員長の 幹さん

在宅医の純一郎さん……スウェーデンのシルビアdoctor

世田谷区認知症施策評価委員長の ゆき……オレンジプランのadviser

Proactive（後手に回らず、先手勝負） co-production（協働創造）、希望ファイル

世田谷区 認知症とともに生きる希望（のまち）条例案（仮）

【世田谷区条例の基本的方向性】
自治体の条例の多くは、事故賠償の肩代わりに象徴される「事後の対応」に留まっており、「事件や事故を未然に防げる地域社会を作る」という本質的課題の実現を目指してはいない。
人々の心の中に蔓延する悲観的な認知症観も「事後の対応」に終始する医療・介護等の仕組みの中でつくられたイメージだと言わざるを得ない。
一方、国際的には Proactive（後手に回らず、先手勝負）という言葉が認知症政策のキーワードとなっている。これは、「いわゆる予防」とは異なる概念である。タイミングを逸した事後の対応によって希望を見失うのではなく、その事件の上流にある本質的課題に先制的に取り組み、希望を見出ししていくという意味である。
世田谷区の条例では、「本質的課題に先制的に取り組み、希望を見出ししていく地域（proactive community）」の実現を本気で目指し、事後の対応の積み上げの中で生れてきた悲観を、認知症の人と住民との協働創造（co-production）によって打破すること、を理念として掲げる必要がある。

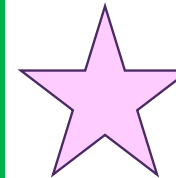
【本質的課題に先制的に取り組み地域を実現するための3つの概念】
① **タイミングを大切に**（timely action）：認知症になる前からの「備え」、診断前後からの充実した生活支援
② **当事者・住民の参画による協働創造（co-production）**：小地域（日常生活圏域 28 地区）それぞれに本質的、上流の課題を把握し、その改善に向けた住民参画の取り組み。特に、多世代交流による協働創造（trans generational co-production）を推奨する。（子ども若者のサービスと認知症サービスの積極的な協働と意義ある交流）。
③ **第3の選択を保障する**（choice）：「在宅で生活を続け、家族に迷惑をかける」のか、「迷惑をかけずに施設・病院に入る」のか、という暗黙かつ頑強な「二択一カルチャー」（これも事後の対応の積み上げの中で形作られた意識）を意識化し、それを打破し、地域・在宅で思い自なく安心して生活するという「第3の選択」を実現する。選択の無いところに、自主性（autonomy）は成立しない。

【本質的課題に先制的に取り組み地域を実現するための2つの具体策（目玉施策）】
① 認知症になる前からの備え「私の希望ファイル（仮称）構想」

① 認知症を経験している当事者 3 名以上を含む「世田谷区認知症ワーキングチーム」（区長直轄チーム）を設置し、70 歳以上の区民全員が、認知症になったときのことを想定して、どのように生活していきたいかの希望を具体的に表明する「私の希望ファイル」とそのガイダンスを協働創造（コ・プロダクション）によって開発する。↓
② 小地域ごと（28 の日常生活圏域）に「私の希望ファイル」を普及するための啓発プログラムを展開。区民が認知症になることを想定して作成した「私の希望ファイル」は、世田谷区認知症サポート室が保管する（定期的な更新必須）。
③ 認知症になった際、事前にサポート室に保管されている「私の希望ファイル」に基づいて認知症サポート室と世田谷区が新たに認定する「希望ファイルを実現する認知症ケアマネジャー」とが連携して支援を開始する。その際、介護保険制度の枠内では提供が困難な支援等については、区として総合事業の拡充をはかるとともに、地域のインフォーマルな資源等も大胆かつ創造的に活用して実現を目指す。そうした「私の希望ファイル」の実現のための周囲の支援者たちの創意工夫を評価する表彰制度（区長とワーキングチームによる表彰）を設ける。
④ 認知症施策評価の際の最も重視すべきアウトカムは、「私の希望ファイル」に記載された区民の「希望」がどの程度実現されているか、とする。

② 28 地域の協働創造を活性化させる「私たちの希望ファイル（仮称）構想」
① 「私の希望ファイル」が個々の区民の事前の希望表明（ACP: Advanced Care Planning）的なものであるのに対して、「私たちの希望ファイル」は日常生活圏域ごとに住民たちの協働創造によって作成される希望実現まちづくり計画（ACP: Advanced Community Planning）である。
② この「私たちの希望ファイル」の作成にあたっては、まちづくりセンター、社協、地域包括支援センターも積極的に参画する。
③ 「私たちの希望ファイル」の実現に向けた地域ごとの創意工夫、またその達成などを評価・表彰する仕組みを作る。28 の小地域から毎年、3 つ程度の地域を「希望実現に貢献なまち・世田谷賞」（仮）として表彰する。

【2 つの具体策を含め認知症施策の検討と評価、推進体制の構築】
① 区長直轄認知症ワーキングチーム（当事者の方々を 3 名以上含む）
② サポート室の位置づけと役割の明確化
③ 28 地域（日常生活圏域）ごとのアウトカムマッピング等



他の自治体と違って、

先手必勝、予防でな備え、本人委員が条例づくりに参画

全国11市区町村に認知症条例

自治体名	条例の名称		施行年月
東京都世田谷区	認知症とともに生きる希望条例	本人参画	2020年10月
愛知県	認知症施策推進条例	予防	2018年12月
愛知県名古屋市	認知症の人と家族が安心して暮らせるまちづくり条例	予防 事故賠償	2020年4月
愛知県大府市	認知症に対する不安のないまちづくり推進条例	予防 事故賠償	2018年4月
愛知県知多市	認知症施策推進条例	予防	2020年4月
愛知県東浦町	認知症にやさしいまちづくり推進条例	予防	2020年6月
愛知県設楽町	認知症の人にやさしい地域づくり基本条例	予防 事故賠償	2018年9月
滋賀県草津市	認知症があっても安心なまちづくり条例	予防	2020年7月
兵庫県神戸市	認知症の人にやさしいまちづくり条例	予防 事故賠償	2018年4月
和歌山県御坊市	認知症の人とともに築く総活躍のまちづくり条例	本人参画	2019年4月
島根県浜田市	認知症の人にやさしいまちづくり条例	予防	2019年9月

認知症体験者の意見を条文に反映させたのは御坊市と世田谷区のみ
「予防」「家族」「賠償」「やさしい」より、
「認知症観を変える」「備え」「パートナー」「本人の参画」



条例で「認知症についての考え方」を変える！

これまで(他人ごと・問題対処・疎外・絶望)

- 他人ごと、自分には関係ない
- なにもわからなくなる
- おかしい言動で周囲が困る
本人に理解のない環境
- 本人はわからない、周りが決める
- 地域の中では暮らせない
隠す、地域から遠ざける
- 支えられる一方
- あきらめ、暗い、**絶望的**

これから(自分ごと・可能性・共に・希望)

- 自分ごと、自分にも関係がある
- 本人なりにわかる、できることがある
- 言動にはワケがある
- 配慮があれば、自分で決められる
- 地域の中で暮らし続ける
オープンにし、地域とともに
- チカラを活かして活躍、支え合う
- あきらめず、前向きに、**希望を**

ひとりひとりが、新しい考え方にチェンジ！
新しい考え方の仲間が増えると、本人、家族、みんなが暮らしやすくなる！

3人の認知症体験者が条例制定委員会に
条例の名「安心」「優しさ」はイヤ。「希望」をと。

美術の先生
スーパーの社長さん
読み聞かせボランティア



2014年4月

「もちよりカフェ」(毎月第4金曜日:松陰神社)

もちよるものは
「食べ物|品」と
「妄想」



2014年9月

せたカフェの 認知症カフェと介護講座

- NPOのデイホームが「場所」を提供
- 住民、介護家族、本人、介護専門職など、誰でも参加(メンバーシップなし)
- 毎回、ゲストが話題提供または実技講習
- ゲストは、医師、ケアマネジャー、介護士、施設長、薬剤師、
認知症本人、介護家族など
- 参加費は500円(珈琲などの飲み物とクッキー)
- 開催日：現在休止中(オンラインで「土曜お茶会」を開催)



ケアコミュニティ せたカフェ主催

第33回 認知症カフェ

～認知症をどう生きる?～

認知症に対する考え方は変わってきたけれど、自分が認知症になったとき、どう生きていけたらいいのかわからない課題です。今回の「認知症カフェ」のゲストは三鷹市でのぞみメモリークリニックを聞く木之下徹ドクター。認知症の第一人者が、認知症に対する誤解を解いていきます。目からウロコをボロボロ落としながら、認知症の人があたりまえに暮らしている社会を、楽しく一緒に考えましょう。

ゲスト
木之下徹さん
認知症医療の第一人者。東京大学医学部保健学科卒業後、同大学院博士課程へ。2001年から認知症の人々の在宅医療に取り組み、14年、のぞみメモリークリニックを開院。認知症の人や家族に寄り添った診療をモットーに、外来診療をしている。診療はTシャツ。やや、ほっちゃんり。

木之下徹さんプロフィール
1962年生まれ。認知症診療の第一人者。東京大学医学部保健学科卒業後、同大学院博士課程へ。2001年から認知症の人々の在宅医療に取り組み、14年、のぞみメモリークリニックを開院。認知症の人や家族に寄り添った診療をモットーに、外来診療をしている。診療はTシャツ。やや、ほっちゃんり。

日時 1月12日(日) 13:30～15:30

場所 デイサービス みのりの庭

参加費 500円 (コーヒー、クッキー付) 定員20名

第32回 実践介護講座

介護家族のための

せたカフェの「介護家族のための実践介護講座」は、日々の介護のなかで、介護家族が知りたいことや覚えたい技術を、介護者目線で実践的に学ぶ講座です。介護家族にとって、毎日の介護が原因でうつ状態になることは少なくありません。今回はそうした介護家族のストレスマネジメントを中心に、精神科医とともに考えます。介護する側もされる側も、心や身体が少し楽になるヒントを学びましょう。

杉原正子さんプロフィール
早稲田大学教育学部数学科卒業、日本IBM(株)に勤務したが「機械は愛せない」と、文学の大学教員を目指して退職。ハーバード大学大学院比較文化学、東京大学大学院総合文化研究科博士課程、山梨大学医学部を経て、現在、東京医療センター精神科医。慶應義塾大学医学部精神神経科学教室助教。日本精神神経学会認定専門医など。

介護家族、支援者によりするための心の医学

講師：杉原正子さん
精神科医

日時 2月9日(日) 13:30～15:30

場所 デイサービス みのりの庭

参加費 500円

申し込み先、会場のご案内、年間スケジュールなどの詳細は裏面をご覧ください

2015年

せたカフェの「番外講座」

参加者の「妄想」を
ひとつずつ実現

「笑いヨガ講座」2015年3月

「SETAGAYANフェスタ」2015年7月

「地域丸ごとケア会議」2015年10月

「介護する人、される人が元気になるADL体操」2015年11月



2016年

地域まるごとケアを学ぶ「まるごとカフェ」

第1回 2016年6月4日

「幸手モデル」に学ぶ

ゲスト：中野智紀医師、小泉圭司さん

第2回 2016年9月24日

大田区「みまーも」に学ぶ

第2回目：9月24日（土）

ゲスト：沢登久雄さん

合言葉は
「住み慣れた場所で
最期まで」

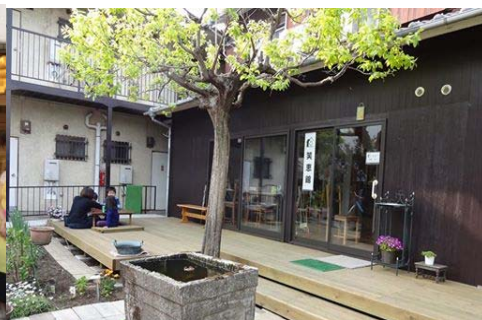
「地域包括ケアの目標は、医療介護の一体的提供や
地域連携や多職種連携自体ではなく、
住み慣れた地域で住民が最後まで誰もが暮らし続けられること。
連携はその結果であって目的ではない」（中野智紀さん）



せたカフェのネットワーク

どんどん訪ね合う
どんどんつながる

多世代サロン「笑恵館」、グリーンサポートせたがや、ぬくぬくハウス、岡さんの家、シェア奥沢
ケアラズカフェKIMAMA、いきいきカフェ、防災カフェ、子ども食堂
せたがや子育てネット、NPOリンク、介護サービスネット、認知症カフェ(39か所)



2014年

ケアのまちづくりを「市民力」で

「世田谷の福祉をとことん語ろう」

- 第1回 ～どうする？ せたがやの地域包括ケア～ 2014年10月
- 第2回 ～当事者に聞く地域包括ケア～ 2015年2月
- 第3回 ～住民との協働でつくる地域包括ケア～2015年8月
- 第4回 ～地域まるごと^かケア、市民参加のプラットフォームを～ 2016年2月



区長と協働
「住民参加」から
「参画」へ



後に世田谷
副区長になった
ゲスト講師(@_@)
松村克彦さん

2018年

3人のオバサン、立ち上がる

ケアを全世代で
考えよう！！

「世田谷って、たくさんの「居場所」があるけど、
つながっていないよね。つなげてみようよ」⇒「居場所」サミット

岩瀬はるみ (ケアラズカフェKIMAMA)

中澤まゆみ (ケアコミュニティせたカフェ)

松田妙子 (NPOせたがや子育てネット)

3つのKIMAMAカフェ
始まりは「自宅カフェ」から

ケーキ教室から住み開き型の自宅カフェへ発展
きままなスイーツカフェ
2003年9月開設
毎週火曜日11:00~17:00



居場所は誰でもつくれるよ

NPO法人せたがや子育てネット 代表理事
世田谷区地域子育て支援コーディネーター
松田妙子



実行委員会、できました

高瀬有二（介護福祉士）

渡辺隆行（ケアマネジャー）

伊藤朱子（建築家・大学講師）

坂倉杏介（コミュニティデザイナー、東京都市大学准教授）

松本典子（駒澤大学教授）



せたがや 居場所サミット

～ケアする社会は「居場所」から～

日時 2018年2月25日(日) 11:00~16:00
会場 東京都市大学 夢キャンパス
参加費 無料

- パネル展示 11:00~
- 挨拶&基調トーク 12:30~
『なぜ、いま「居場所」なのか』中塚まゆみ (せがや代表理事)
- トークセッション 12:40~
これからの居場所 ~「居場所」は誰でもつくれるよ~
松田紗子 (せがや子育てネット代表)
岩瀬はるみ (コミュニティカフェDUTTO KOKO代表)
澤山ゆみ (山手山手カフェ・コロ「ぽんぽん」)
安藤勝信 (せがやセカンド代表)
- トークリレー 14:00~
私たち、こんな「居場所」ついています (中塚まゆみ)
- 交流タイム 15:00~

お申込み・問い合わせ
電話：03-5477-9891 (中澤)
メール：mayucat2jpb@bb.ne.jp

2018年

本当の「地域共生社会」をめざして

2018年2月25日 第1回せたがや「居場所」サミット

子ども、若者、障害者、高齢者「ごっちゃませ」!! 48団体が参加

こんなつながりを
待っていた!!



世代を超えた「居場所づくり」の輪

- 第2回居場所サミット 2019年3月21日 (59団体) **以降の会場は駒澤大学**
- 第3回居場所サミット 2022年7月2日 3年ぶりにリアルで開催(40団体)
- 第4回居場所サミット 2023年5月27日 リアル開催(59団体)

2019年～
2023年



第3回 世代がや 居場所サミット

子育て 高齢者 介護家族 認知症カフェ

～ケアする社会は「居場所」から～

日時 2022年7月2日(土)11:00～16:00
会場 駒澤大学 駒沢キャンパス3号館 羅月ホール
参加費 入場無料

●パネル展示 11:00～
●トークセッション 12:30～
～コロナ後の「居場所」のつくり方～
荒木直子 (愛知県プレーパーク推進人代表)
タマリバタケ (一財、代表：NPO法人neomura 新井裕)
木畑実麻 (一般社団法人みちまちプロジェクト代表理事、タタハスオーナー)
高野雄太 (一般社団法人おやまちプロジェクト代表理事、タタハスオーナー)
【司会】松本典子 (駒澤大学教員)
【コメント】李 妍焱 (駒澤大学教員)

●展示団体トークリレー 14:00～
●交流タイム 15:00～

ひきこもり サロン 地域デイ

お申込み・問い合わせ
電話：03-5477-9891 (中澤)
メール：mayucat2jp@ybb.ne.jp

所在地：〒154-8525 東京都世田谷区駒沢P3-23-1
【交通アクセス】
東武東横線「駒沢大学」駅下車
徒歩5分(徒歩15分は徒歩10分)
https://www.komazawa-u.ac.jp/facilities/campus/komazawa.html

主催：「世代がや居場所サミット」実行委員会 共催：駒澤大学経済学部現代応用経済学科学ラボラトリー 後援：世田谷区、駒澤大学
会場デザイン：伊藤美奈子 (東京都立大学講師)



これからのケアのまちづくりとは？

「支援する⇒支援される」より「おたがいさま」「そばにいるよ」

誰でも「中途障害」になる可能性がある ⇒ 障害、交通事故、がん、認知症、加齢・・・

求められているのは「お互いがケアする社会」

困った人を見捨てる社会は、自分も見捨てられる社会。
生きにくさも認知症も、自分ごとだと思えば、みんなが声をあげやすくなる。
本人も家族も、親も子もSOSが出しやすくなる。

■ ちょっとずつのおせっかい ■ できることを、できるだけ

■ 子ども、障害者、高齢者も、地域の「宝」になる社会

「仲間」「居場所」
「役割」「参加」

「認知症は怖い・なりたくない・自分にならない。

けれど、優しくしてあげましょう」という

誤った時代遅れの認知症観を変えるために

「サポーター講座」から、「アクション講座」に

世田谷区は、この改革の優等生

厚生労働省の検討会に招かれて担当課長が報告

そのときのスライドが上です。



いままで との違い

基本資料+講座の対象や
状況に応じて
柔軟に対応できる講座。

資料にはご本人出演動画
やご本人の登壇も！今後
も柔軟に増やしていくこ
とも可能！

<認知症サポーター養成講座>

- “本人”が不参加。本人が聴く
とつらい内容
- 医学モデルでの認知症の知識
- 認知症の症状のために困っている
人を“サポートする”
“ノウハウを知る”
- 地域で“見守り”していこう
- 受講した証明は“オレンジリング”



<アクション講座>

- “本人”が参加できる
講師にもなれる
- “生活モデル”で“生活障害”の理解
- 認知症体験者の“声”から、自分ごと
- 地域でともに生きるパートナー
- 地域で暮らすために“希望”を語る
- 参加者には“アクションガイド”

公開講義のゲスト

当時は、厚生労働省社会・援護局長・山崎史郎さん

いま、内閣官房全世代型社会保障構築本部事務局総括事務局長

このプロジェクトは、「認知症の人は、精神科病院や施設を利用せざるを得ない」という考え方を改め、「認知症になっても本人の意思が尊重され、**できる限り住み慣れた地域**のよい環境で暮らし続けることができる社会」の実現を目指している



⇒オレンジプラン2012
ところが!!!!!!

政権交代で「新」オレンジプラン



苺とクリームで飾られた
デコレーションケーキ

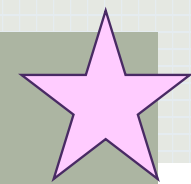


白雪姫の毒リンゴ・
知らぬがホトケの毒ミカン
2015「新オレンジプラン」(『精神医療』誌)

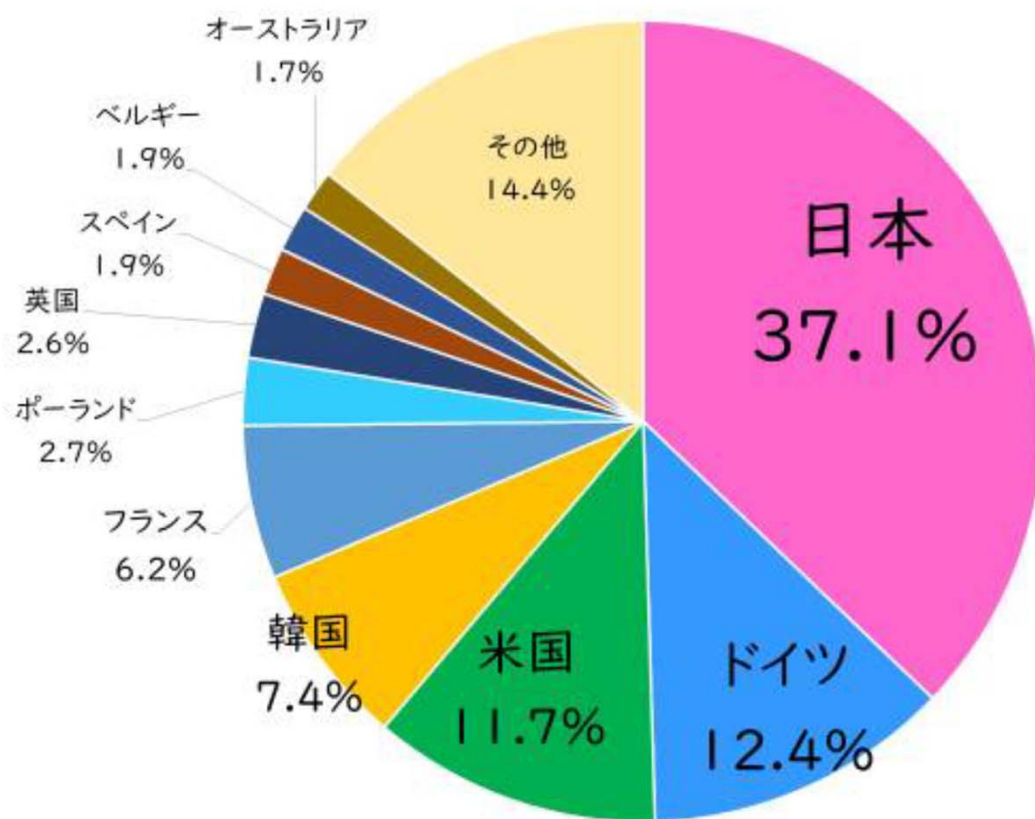


「精神病院が司令塔」と政権与党が加筆(@_@)
共同通信だけ「見え消し版」を入手。
専門家も「新」なのだからよくなったのだと錯覚

その結果、日本の精神科ベッドは
先進諸国の37%!!!!!!!

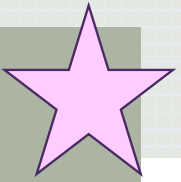


認知症の人を入院させるという「日本独特」の現象



OECD加盟国
精神科病床数比較(推定)

作成: 藤井克徳 / 佐野竜平
(2022年8月)



「地域で見守る？ 誰が？ あんた、できんの？」

社会構造・偏見 変わんねえよ

国連勧告 よけいなお世話

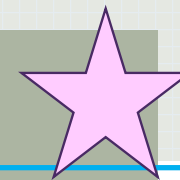
…東京新聞2023.7.7



日本精神科病院協会会長



けさ(7.27)のホヤホヤ「えにし」メール



◆◇精神病院をなくした愛媛県愛南町の御荘診療所・長野敏宏doctorが
栄誉ある「若月賞」を受賞なさいました(o^^o)◆

6年前の「新たなえにしを結ぶ会」の濃縮シンポ「精神医療革命3つの嵐」で

<http://www.yuki-enishi.com/enishi/enishi-2017-20.pdf>

「山の上の精神病院をなくした経験」をはなしてくださった

<http://www.yuki-enishi.com/enishi/enishi-2017-04.pdf>

御荘診療所の 長野敏宏さん。

**1998年には149ベッドあった精神科病院を6年前に閉鎖。
入院していた人たちは、まちで、畑で、山で、温泉宿で、
生き生きと暮らしています。**

なぜそれが可能になったのか？

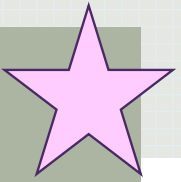
受賞講演のパワポを長野さんからいただきましたので、

「えにし」のHPの「精神医療福祉の部屋」の部屋にアップしました。

<http://www.yuki-enishi.com/psychiatry/psychiatry-112.pdf>

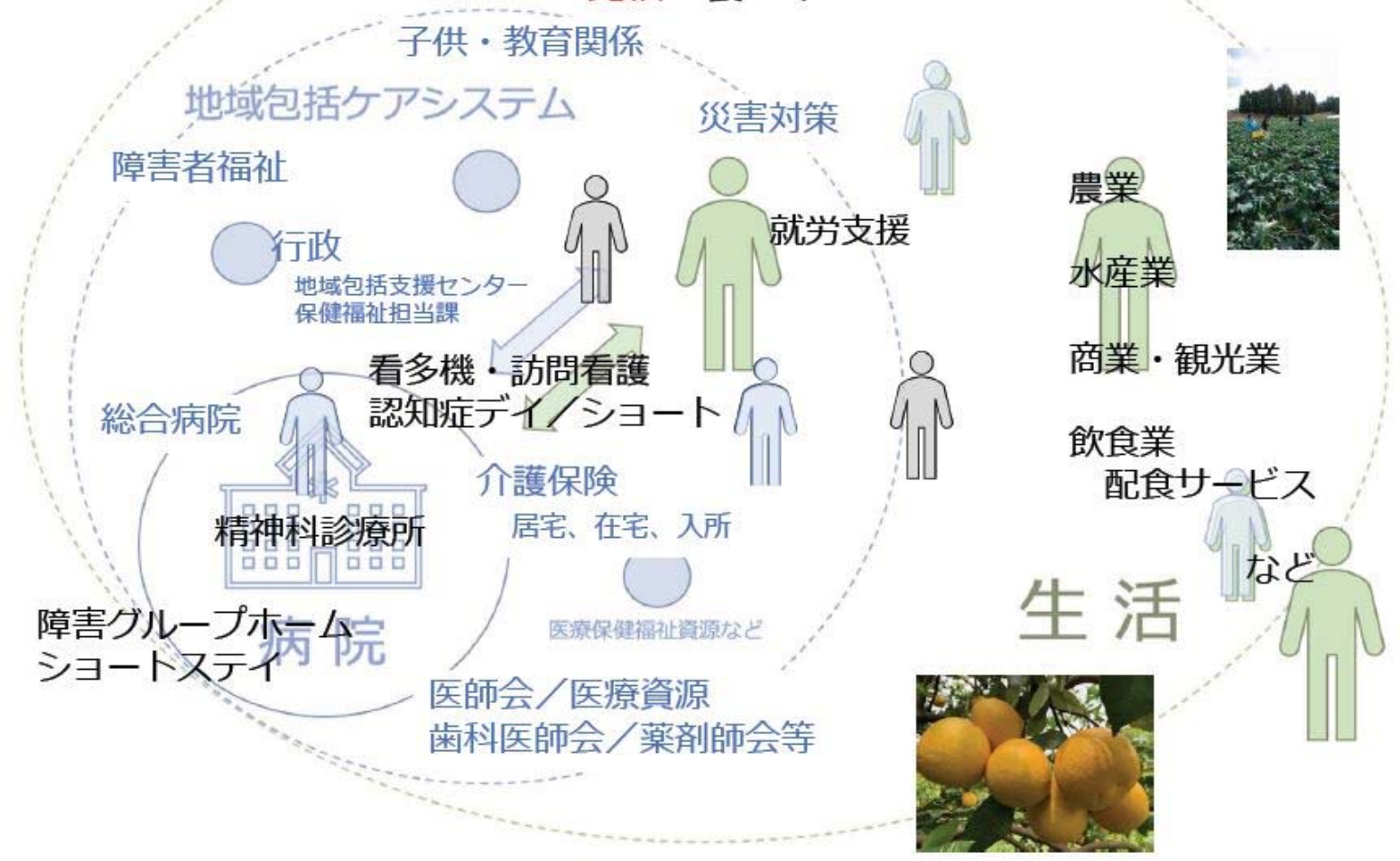
「えにし」のジャーナリスト、共同通信の市川亨さんの昨年12月のルポも

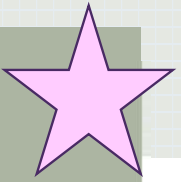
<http://www.yuki-enishi.com/psychiatry/psychiatry-109.pdf> あわせて、どうぞ。



愛南町における私たちの取り組み 概略

～覚悟の裏付け～





山崎温泉
YAMAZAKI ONSEN

「ただいま」と
言いたくなる宿

- > 泊まる > 食べる
- > 温泉 > 遊ぶ
- > 憩いの聖地

☎ 0895-72-6263

〒766-4133
愛媛県南宇和郡東条町緑乙4082番地1

↓
スポット



6年前の「新たなえにしを結ぶ会の濃縮シンポ「精神医療革命3つの嵐」で「べてる」の向谷地生良さん・「オープンダイアログ」の斎藤環さんと縁結び

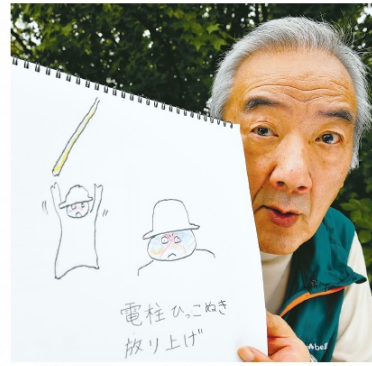
認知症幻視 面白いじゃん

回復の元 テレビマンインイラストに

テレビ東京アメリカで社務を務めた眞田直義さん(仮名)がレビー小体型認知症の幻視、現れた幻視をイラストにして紹介している。体調悪化で一時は寝たきり状態でも難しかったが、現在は住まいのある東京都世田谷区で認知症療養の評価を担う「元」回復した。講演に呼ばれ体験を話せる機会も増えおり、講演会に呼ばれ「認知症になる時代。普通にあっちゃんとして生きていく」

〇目下 眞田さんの容姿全面の認知症療養担当が参加したオンラインセミナーにあった。認知症を回復した元回復した。講演に呼ばれ体験を話せる機会も増えおり、講演会に呼ばれ「認知症になる時代。普通にあっちゃんとして生きていく」

「偏見なく支え合う社会」願い



電柱を放り上げる子どもの幻視を描いたスケッチブックを手にするレビー小体型認知症の眞田直義さん。東京都千代田区で9月1日、内藤絵笑撮影

復讐のきっかけになった出来事がある。看護小規模多機能(預かり)「かんたき」の介護保険サービスを提供する施設で、スタッフの献身的な姿を目の当たりにした。この瞬間に「おはなすの口を離した。おはなすも懸命に飲み込む。真剣な人の全人格を見た瞬間、心を打たれた。僕の中で何か変わった」



電柱を放り上げる子どもの幻視を描いたスケッチブックを手にするレビー小体型認知症の眞田直義さん。東京都千代田区で9月1日、内藤絵笑撮影



「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」は、私たちのこれからの生き方とともに暮らす地域への道しるべです。認知症を体験した委員とともに制定し、その思いを大切に、条例名に「やさしさ」ではなく「希望」という文字が入りました。予防より「そなえ」。そのために、ひとりひとり、またはみんなで「希望ファイル」をつくってみたいことが条文に盛り込まれました。早期発見・早期診断が早期絶望につながってきた過去への反省から、たとえば身近な地域で「アクションチーム」をつくる挑戦が始まろうとしています。「かわいそうな人をサポートしてあげる」のではなく、「パートナー」としてともに生きる。そんな世田谷をつくるために、魅力的なパネリストにご登壇いただきます。

前例を超えた世田谷区の認知症条例



基調講演 & コーディネーター
丹野智文さん

新著『認知症の私から見える社会』は、300人を超える当事者との出会いから生まれました。フォルクスワーゲンの東北地区トップセールスマンだった8年前、39歳のときにアルツハイマー型認知症と大学病院で診断されました。絶望した丹野さんが救われたのは認知症の先輩との出会いでした。地元仙台では、「当事者の当事者による当事者のための認知症カレッジ」など幅広く活動しています。社長の方針で、いまもネットトヨタの社員。基調講演とともにコーディネーターもしてくださいませ。

ほさかのふと 保坂展人 区長



この条例には強い意欲をもって取り組み、毎回の議論にも参加してきました。2011年4月に就任して、3期目。「地域福祉」を重視し、世田谷区独自の28か所のまちづくりセンターに「福祉の相談窓口」を置いて、地域包括ケアを地区で展開。高齢者福祉のもっと大きな課題として「認知症と共に生きる地域社会づくり」を重視しています。「参加と協働」を掲げた区政展開の中で、認知症当事者や家族、医療・介護関係はもちろん、多くの区民が熱心に語り、力をあわせる地域づくりを大切にしています。

パネリスト

はせべやふとし 長谷部泰司さん



スーパーマーケット関連会社の社長でした。認知症の症状が表れたのは退職した後の73歳の頃。ひとり暮らしのマンションはモノが片付かなくなり、次女が暮らし世田谷区へ。「どうなってもいいんだ」といられ、周りに怒りをぶつける日々。ところが、条例検討委員となり発言が尊重されるとともに、自信をとりもどしました。条例スタートの記念シンポジウムでは「条例は大きな希望になるのではないですか。老人を代表してお礼を申し上げます」と感謝の言葉を。

めきたただよし 眞田直義さん



テレビ東京の名プロデューサー。時代を先取りした連続企画『少年長命時代』は、全国62カ所をロケ。歌手のアグネス・チャンなど異色のコメントレーターを起用し、看板番組に。テレビ東京アメリカの社長を退職後の70歳のとき、認知症とともに「ソファ」の後ろからゴリラが、など幻視の症状が現れ、レビー小体型認知症と診断されました。「講演デビュー」がきっかけで、次第によみがえり、動画づくりではみずから脚本を書くほどに。

さわたさきこ 澤田佐紀子さん



30年以上、講師として小中高・特別支援学級で美術を教えていましたが、60歳を過ぎてから、複数の学校や生徒を同時に把握したり、成績を付けたりすることが難しくなり、母親や祖母と同じアルツハイマー型認知症であると自覚。条例検討委員会では「サポーター」だと頼ってしまう。「パートナー」と自分も努力しようという気持ちが湧いてくる。だから「サポーター」でなく、「パートナー」に」と条例を方向づけました。佐紀子さん制作の「願いの葉」を貼りつけていく「希望の樹」は、認知症在宅生活サポートセンターを

プロジェクト推進チーム 世話人

- 中澤まゆみさん (情報発信担当・福祉ジャーナリスト)
- 長谷川幹さん (地域づくり担当・せがや福祉区民学会会長)
- 遠矢純一郎さん (本人発信担当・認知症在宅生活サポートセンターを運営する在宅医)
- 西田淳志さん (希望ファイル担当・世界の認知症政策に堪能)
- 永田久美子さん (企画担当・日本各地の認知症療養の応援役)
- 大熊由紀子さん (まとめる担当・志の縁結び係る小間使い)

会場マップ

丹野智文さん
保坂展人さん
眞田直義さん
みんな公開講義のゲスト

条例をつくる検討会の体験者委員のひとり

長谷部さん

73歳ころから異変、独り暮らしの部屋は座る場所もなく「どうなってもいいんだ」といら立ち、まわりに怒りをぶつけるように。

松沢病院で、アルツハイマー型認知症と診断

委員会が始まったときは、ほとんど発言がなく。

でも、その後。。

等々力小学校

2021・10.9. AM 9



認知症の人を不幸にする講座 改革へ。。。
世田谷はアクション講座⇒国も改革作業に着手

認知症サポーター
キャラバン

認知症サポーター養成講座標準教材

（ 認知症を学び
みんなで考える ）

世田谷 認知症とともに生きる

みんなでアクション
ガイド



世田谷区
みんなでアクションガイド